

LMS利用した授業改善、コミュニケーション

神戸学院大学

全学でeラーニングが利用できる2種類の学習支援システム(LMS)があり、教材配信、レポート提出などに幅広く全学で利用されている。また、一部の学部では授業改善やコミュニケーションツール、アンケート集計などにも幅広く活用している。

1. 実施規模

全学部の授業が対象

科目数 500以上、受講学生数：約8,000名(2011年度実績)

2. 活用状況

学習支援システム(LMS)は、ファイルの配布・回収に特化したシンプルな独自開発のものと、多機能なパッケージ製品の2種類があり、両システムとも履修者へメールを送信する機能を備えているため、履修者への連絡手段として活用されている他、情報処理系ではない科目でもパソコン教室を利用し、LMSで授業中に随時アンケートやオンラインテストを実施して、学生の理解度を把握している。

また、本学では各学期末にマークシートを用いた授業改善アンケートを行っているが、2011年度は薬学部と法学部の全ての専門科目でこのシステムを利用してアンケートが実施された。

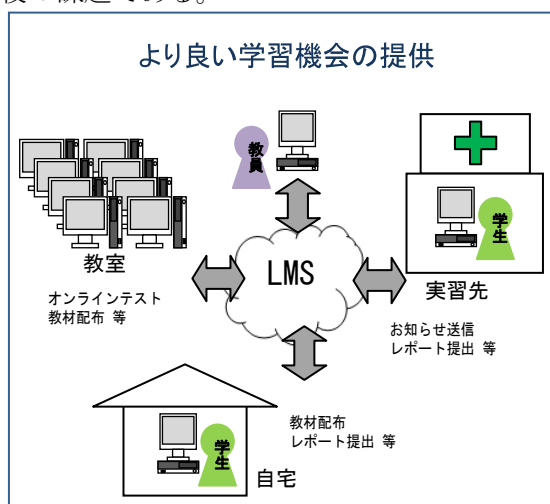
3. 活用の効果

学習支援システム(LMS)によるアンケートは短時間で結果を集計できるため、学生からの意見を授業に反映させやすく、学期途中で一度アンケートを実施し、その学期の後半での授業に向けてアンケートの意見を反映する試みや、学外実習中の学生への連絡手段、レポートの提出手段としても活用されている。掲示板機能では各科目別に教員と学生の質疑応答・講義時間外でのディスカッションが行われている。また、オンラインで資料の配布・レポートの回収・採点ができるため、今までの手間が大幅に削減されるなど教職員の負担軽減が図れている。

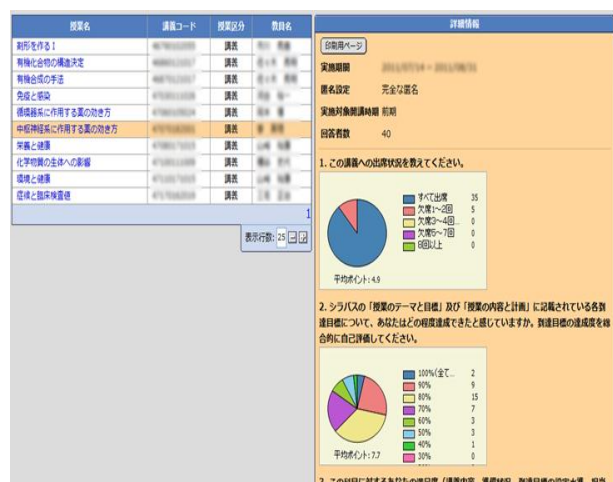
4. 今後の課題

資料の配布や課題提出手段としての利用者は増えているが、LMSを使った授業改善アンケートは、回収率が低下傾向にあることから、携帯電話やスマートホン等からも回答できる機能の周知と、URLやパスワードの入力が不便な携帯端末から容易にアクセスできる方法の工夫が必要である。

また、授業改善アンケートに回答することで学生にどのようなメリットがあるのかを明確に示し、教員もアンケートの意見をどのように反映させるかを明確にした上で回答させる等の取り組みが今後の課題である。



(システムのイメージ)



(画面例)